まちの政治をみつめよう学級

みやま市政治学級二十日クラブ事務局長　田中 敬一郎

「みやま市政治学級二十日クラブ」の発足

自主学習組織「みやま市政治学級二十日クラブ」（以下「二十日クラブ」）は、平成19年１月にみやま市（福岡県瀬高町、山川町、高田町が対等合併）が誕生したことに伴い、同年４月、旧瀬高町政治学級二十日クラブ（以下「瀬高町クラブ」）を母体とし、名称・組織、学級活動などをそのままの形で継承し、誕生した。開講日の出席者は６人、年間の活動計画や世話人などを決定したが、行政関係者の出席もない、静かな学級活動の再開であった。

瀬高町クラブは、県内各市町村に「政治学級」を発足させるという昭和40年代初頭の福岡県の方針（有権者の政治意識を高め健全な民主政治の確立をめざす）により、設立された。瀬高町クラブは、町選管や教委との連携のもと、毎月20日に、市長懇談会、市議会傍聴、選挙啓発研修会などを催し、半世紀にわたり政治学級としての活動を続けてきた。

このように、瀬高町クラブは町選管や教委の指導学習的な要素が強かったが、二十日クラブは行政から全く独立した自主学習組織としてスタートした。

軋轢と再出発

二十日クラブを「住民が身の回りの政治を学ぶことにより自治意識を高める」政治教育の場として捉え、毎月の学習会を行うなど活動は軌道に乗り始めたが、次第に周囲と軋轢が生じるようになった。

学級活動として行われる市の出前講座や市議会の傍聴などを通して、このまちは「意見を言わないまち、意見を言うと嫌われるまち」など、これまで知らなかった「まちの姿」が少しずつ見えてきた。これらを見かねた学級生らは、行政や議会などに積極的に建設的な意見を言う場面が多くなり、行政や議会と意見が対立することが多くなっていった。

そのため、瀬高町クラブの時代から続いていた議長や市長との懇談会が中止となり、また行政や市議会との関係がぎくしゃくするなど、二十日クラブにとって不幸な時代を迎えることとなった。また「政治学級」という名称に対する市民の偏見も感じられ、二十日クラブは市民や行政から浮き上った存在として見られるようになった。

そこで、これまでの学級活動を反省し再構築を図るため、福岡県内市町村の政治学級の設置状況や、福岡県選管や教委を通じて政治学級の目的などについて調査を行った。この段階で初めて“まちの政治をみつめよう学級”という正式名称の存在や、他都市の活動状況などを学び、二十日クラブの来歴や活動についての理解を深めることができた。これを機会に、二十日クラブは活動の転換期を迎える。

平成20年から、毎年「広報みやま」３月号での学級生募集を始めた。その結果、東京、大阪などから故郷へUターンされた市民や、定年退職された市民など、新しいメンバーを迎え、学級生は15名となった（平成24年９月現在）。

22年度には初めての定期総会を開催し、事業計画や予算などを決定するとともに会則を制定した。この総会には久しぶりに市長の出席を得ることができ、これを機会に「市長懇談会」も再開された。24年には、“まちの政治をみつめよう学級”として、市のHPに活動紹介が掲載され、二十日クラブは市の認知団体となった。

このように行政との関係は、今では良好なものとなっている。

現在の学級活動

＊基本方針

再出発した二十日クラブは、以下の基本方針のもと、活動を行っている。

・政治に対する正しい理解を深めるため、「政治と市民生活との深い関わり合い」をテーマに学習会を行う。
・みやま市が目指すまちづくり将来像「人・水・緑が光り輝き夢ふくらむまち」に則して、「まちの魅力とよさ」を探り、郷土に誇りと愛着を持てるような学習メニューを計画・実施し、学級生の資質を高め、生涯学習としての充実感が得られるようにするとともに、まちづくりに寄与する。

＊活動内容

定例学習会（毎月20日開催）、専門部会（10日開催）、トークカフェ道の駅（月１回開催）、などの学習会を柱とした活動を行っている。

①定例学習会…市総合計画など、まちづくりの骨格となる諸施策を中心にした市の出前講座などを効果的に活用した学習を行っている。また、市議会定例会や常任委員会の傍聴とともに、市長や市議会議長などを迎えた「まちづくり懇談会」を開催している。

24年度は、５月に初めてみやま市区選出の県会議員を迎え、まちづくり懇談会を行った。議員はブログに、「熱心に私の講演に耳を傾けて頂き、また質疑応答もポンポン飛び出し、約３時間喋りっぱなしの盛り上がった懇談会となりました。質問の内容も非常に前向きで、私も多くのヒントを頂きました」と記してくれた。

また、７月には４年ぶりに市議会議長を迎え、８月には総務文教常任委員会委員長を迎えての懇談会を行った。

②専門部会…歴史・文化、伝統産業・観光など、埋もれた地域資源を再発見し、「みやまの魅力」を探る現場学習などを行っている。現在は、みやまの特産品である木蝋（もくろう）を活用した「手作り和ろうそく」の魅力を広く市内外に発信することに力を入れている。

③トークカフェ道の駅…23年の「道の駅みやま」のオープンに伴い、学級活動の場を公民館から、「道の駅みやま」に移した。これと同時に、新しい学級活動として「トークカフェ道の駅」を設置し、まちづくり市民交流を目的として、不特定多数の市民などが集まり、情報や意見などの交歓の場として試行的に実施している。

まちづくり懇談会

④その他の事業…まちづくりへの提言（22年－観光まちづくり、23年－福祉バス、24年－観光みちづくり〔予定〕）、みやま市の足跡の作成（21年版～23年版、24年版作成中）、市議会定例会一般質問一覧表の作成、などを行っている。

また、23年からブログ「みやまいいまち会」をアップし、二十日クラブの活動状況や、みやま市を中心とした地域・観光情報などの発信に取り組み始めた。

今後の課題

停滞を経て再出発した二十日クラブであるが、今も次のような多くの課題を抱えている。これらを一つひとつ克服しながら、みやま市の発展に寄与したいと考えている。

・行政・市議会、市民などに理解され、共感が得られる学級活動の取り組み。
・社会的な評価なども視野に入れた取り組み（個人から組織レベルの学習へ）
・継続的な発展を目指し、学級生の資質向上と人的資源の掘り起こしを行う。
・明るい選挙推進について、行政などとの連携を模索する、など。

たなか けいいちろう　昭和16年生まれ。福岡県立八女工業高等学校卒。35年に大牟田市職員、平成14年に定年退職。旧瀬高町公平委員、総務省行政相談委員、みやま市行政区長を歴任。